第十七講・短歌①（百人一首）

短歌

短歌とは、日本の定型詩である和歌の形式の一つ。

和歌には長歌、片歌、旋頭歌など色々な種類があったが、短歌だけがうたいつづけられたため、今では和歌といえば短歌を指すようになった。

◆短歌の形式◆

「五・七・五・七・七」の三十一音からなっている。

初めの「五・七・五」を上の句、後の「七・七」を下の句という。

（上の句）			（下の句）	
五	七	五	七	七
金色の	小さき鳥の	形して	いちょうちるなり	夕日の丘に
初句	二句	三句	四句	結句

・字余り　音数が三十一音より多いこと。

・字足らず　音数が三十一音より少ないこと。

◆表現技法◆

・倒置法　言葉の順序を逆にすること。

・比喩　ほかのものにたとえて意味をわかりやすくすること。

・体言止め　名詞（ものの名前）で語句をとめること。

・擬人法　人でないものを人にたとえること。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

一　次の短歌を読んで、あとの問いに答えなさい。

＝和歌（万葉集（まんようしゅう））＝

A

石走る（いわばしる）垂水（たるみ）の上のさわらびの
　もえ出づる（いずる）［　　］になりにけるかも
　　　　　　　　　　志貴皇子（しきのみこ）

（岩の上を水が激しく（はげしく）流れ落ちる滝（たき）のほとりに、わらびが芽を出す［　　］がやってきたのだなあ。）

B

東（ひんがし）の野にかぎろひ（い）の立つ見えて
　かへ（え）り見すれば月かたぶきぬ
　　　　　　　　　　柿本人麻呂（かきのもとのひとまろ）

（東の方の野には夜明けの光がさし始めるのが見え、西の方をふり返ると月がかたむき、しずもうとしている。）

＝近代短歌＝

C

金色の小さき鳥の形して
　いちょうちるなり夕日の丘に
　　　　　　　　　　与謝野晶子（よさのあきこ）

D

街をゆき子どものそばを通るとき
　みかんの香（か）せり冬がまた来る
　　　　　　　　　　木下利玄（きのしたりげん）

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1)　Aの歌の□にあてはまる季節を答えなさい。

□

(2)　Bの歌の「かぎろひ」とは何ですか。（　）の中から最もふさわしい言葉をぬき出しなさい。

□

(3)　Cの歌について、次の問いに答えなさい。

①　この歌によまれている季節はいつですか。

□

②　この歌の鑑賞文（かんしょうぶん）として最もふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　まぶしいほどの銀杏のまいがリズミカルにえがかれている。

イ　たくさんの鳥たちのにぎやかなまいが、かえって夕暮（ぐ）れのさびしさを感じさせる。

ウ　夕日に照り映（は）えてまい落ちる銀杏の葉の形と色を鳥にたとえて、秋の夕方のはなやかな美しさをえがいている。

エ　夕日の岡からながめた遠くの風景が美しい。

□

(4)　Dの歌の「みかんの香せり」というのは、今の話し言葉では使われない言い方（文語）です。その意味として最もふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　みかんを売っていた

イ　みかんのかおりがした

ウ　みかんのかおりがしなかった

エ　みかんを手わたした

□

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

二　次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

短歌は、五・七・五・七・七の三十一音で作られます。千三百年以上も昔から作られ、今も多くの人々に親しまれています。自然の風景や気持ちが、それぞれの時代の言葉でうたいあげられてきました。

まず現代の歌人の作品を読みましょう。

Ａ　四万十（しまんと）に①光の粒（つぶ）をまきながら
　　川面（かわも）をなでる風の手のひら
　　　　　　　　　　　　俵（たわら）　万智（まち）

四万十川の水面に日ざしがふり注ぎ、②おだやかな川風が日ざしとたわむれるように川面にさざ波を立てています。「光の粒」「なでる」「手のひら」という言葉が、やわらかな音のひびきとリズムを作り出しています。

昔の人は、どのような情景（じょうけい）をよんだのでしょう。奈良（なら）時代の終わり（千二百年ほど前）には、『万葉集』という歌集が作られました。その中の一つに、次のような歌があります。

Ｂ　石走る（いはばしる（ワ））垂水（たるみ）の上のさわらびの
　　萌（も）え出（い（ズ））づる春になりにけるかも
　　　　　　　　　　　　志貴皇子

わらびの新芽が、渓（けい）流のほとりで、たきのしぶきに当たってかがやいています。③春をむかえた喜びが、かろやかな水音と光の中で、生き生きとうたわれています。

〈教科書書きおろしによる〉

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1)　Ａの短歌に使われている表現方法を次の中から全て選び、記号で答えましょう。

ア　くり返し　　イ　体言止め

ウ　倒置法　　エ　擬（ぎ）人法

(2)　――線①「光の粒」とは、どのような様子を表していますか。その様子を説明した次の文の［　］Ａ・Ｂにあてはまる言葉を、Ａは文章中から三字でぬき出し、Ｂは十字以内で考えて答えましょう。

日ざしがふり注ぐ川面に［Ａ］が立ち、［Ｂ］いる様子。

Ａ

Ｂ

(3)　――線②「おだやかな川風」とありますが、川風がおだやかであることを表している言葉を、Ａの短歌の中から三字でぬき出しましょう。

(4)　――線③「春をむかえた喜び」とありますが、作者は何を見て春を感じているのですか。Ｂの短歌の中からぬき出しましょう。

(5)　Ａ～Ｂの短歌には共通して感じられる音があります。それは何の音ですか。漢字一字で答えましょう。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

三 次の短歌と鑑賞文を読んで、あとの問いに答えなさい。

海恋し　潮の遠鳴り　かぞへては
少女となりし　父母の家
与謝野　晶子

【鑑賞文】

ふるさとをはなれ、都会ぐらしをするようになってから、ひさしいのです。ふるさとの海を、こいしくおもわずにはいられません。

わたしの家は、浜べにほど近いところにありました。風が潮のかおりをはこんできて、浜にうちよせる波の音がいつもきこえていました。

［Ａ］、ゆめみるような少女のころをすごしたのでした。海のようにふかい父と母の愛をうけて、育ったふるさとなのです。

――生まれ育ったふるさとには、人それぞれに、なつかしい思い出があります。作者にとっては、ことに潮鳴りの音が、子守りうたのように、そしてまた少女をつつみこむやさしい音楽のように、こころにひびいたのでしょう。都会にいても、その音がきこえてきたことでしょう。

はじめに「海恋し」といいきって、ふかいおもいをあらわしました。

〈桜井信夫「はじめてであう短歌の本【心の歌Ⅱ】」より〉

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1) ――線「海恋し」とありますが、短歌の作者は、なぜこのように感じたのですか。鑑賞文の中の言葉を使って答えなさい。

(2) 鑑賞文の[A]に入る表現（ひょうげん）としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア そのよせる波を見つめながら

イ そのよせる波をかぞえながら

ウ その潮鳴りの音をききながら

エ その潮鳴りの音をおもいうかべながら

(3) この短歌の説明としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 都会ぐらしを感じさせる言葉を用いて、ふるさとの生活と対比（たいひ）させている。

イ 子守りうたを「潮の遠鳴り」にたとえて表現している。

ウ 潮のかおりを表した言葉がたくさん使われている。

エ 短歌の最初に言い切りの表現を使って、ふるさとへの深い思いを表している。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

四　次の短歌と鑑賞文を読んで、あとの問いに答えなさい。

①ガレージへ　トラック（ツ）ひとつ　入らむ（ん）とす
少しためらひ（い）　入りて行きたり
斎藤（さいとう）　茂吉（もきち）

【鑑賞文】

まちなかを歩いていると、ちょうど、トラックがガレージ（車庫）へもどってきたところに、であいました。

いったん路上にとまったトラックは、バックして、ガレージにはいろうとします。それがいかにも、これでだいじょうぶかな、ぶつけずにバックできるかな、と、［Ａ］が［Ｂ］のようにためらってから、すすっとはいったのです。

それを見とどけて、なんとなく、あれでいいんだなと、また歩きだしました。

――作者は、トラックそのものに、②じぶんの気持ちをうつしこんでいます。それが「少しためらひ（い）」のことばとしてあらわされました。この歌がよまれたころは、「ガレージ」も「トラック」も、あたらしいことばでした。短歌にはなりにくいような情景を、うつしとったのです。

〈桜井（さくらい）信夫（のぶお）「はじめてであう短歌の本【心の歌Ⅱ】」より〉

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1) ――線①「ガレージへ　トラックひとつ　入らむとす」とは、どのような様子をあらわしていますか。鑑賞文の中の言葉を使って答えなさい。

(2) 鑑賞文の A ・ B に入る言葉の組み合わせとしてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　A＝トラック　B＝生きもの
イ　A＝トラック　B＝機械
ウ　A＝ガレージ　B＝生きもの
エ　A＝ガレージ　B＝機械

(3) ――線②「じぶんの気持ち」とありますが、作者はこの短歌にどのような気持ちをうつしこんだのですか。ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　新しいものへのおどろきや感動を、読み手に伝えたい気持ち。
イ　新しいものが町にあることへのためらいを、読み手に伝えたい気持ち。
ウ　新しい言葉を使って短歌をよむことを楽しむ気持ち。
エ　新しい言葉を使って短歌をよんでいいものか、迷(まよ)う気持ち。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十七講・確認テスト

次の表現技法として正しいものを選びなさい。

１　ものごとをたとえることをなんといいますか。

ア　反復法　　イ　比喩（ひゆ）

ウ　倒置法（とうちほう）　　エ　連

２　同じ言葉をくり返すことをなんといいますか。

ア　反復法　　イ　比喩

ウ　倒置法　　エ　対句（ついく）

３　言葉の順番を逆にすることをなんといいますか。

ア　比喩　　イ　擬人法（ぎじんほう）

ウ　倒置法　　エ　対句

４　人でないものを人にたとえることをなんといいますか。

ア　比喩　　イ　擬人法

ウ　倒置法　　エ　対句

５　詩の一つのかたまり（文章でいう段落）のことをなんといいますか。

ア　比喩　　イ　対句

ウ　くり返し法　　エ　連

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十七講　短歌①（百人一首）

一
(1) 春
(2) 夜明けの光
(3) ①秋
②ウ
(4) イ

二
(1) イ・エ
(2) Ａさざ波
Ｂ(例)きらきらとかがやいて
(3) なでる
(4) さわらび
(5) 水

三
(1) 海のあるふるさとをはなれ、都会ぐらしをするようになってから、長い時間がたったから。
(2) ウ
(3) エ

四
(1) 路上にとまったトラック一台が、ガレージにはいろうとしている様子。
(2) ア
(3) エ

〈確認テストの解答〉
１　イ　２　ア　３　ウ　４　イ　５　エ

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。